

発達勉強会：発達段階に応じた性との付き合い方を考える(基礎編) 研修報告

開催日時：令和5年11月18日(土)18:00~19:10

講師：瀬戸山悠 先生

○セクシュアリティについて

発達に遅れや偏りがあってもなくても、性的な成熟は同じようにやってくる



しかし、日本では「性」が関わると「ためらい」の感情になってしまう。



子ども達は性的な問題に向き合えない

○「性」教育は世の中を生きていく人格を育てるのに必須の「教養・知性」

・「性」について正しい知識を知ることが性被害の加害者や被害者になることを防ぐ

学校では

月経や射精は教える

受精の仕組みや性交については取り扱わない

親は

学校で教えてくれるだろう

自然とわかるものじゃない？ うちの子にはまだ早い

→多くの子どもは「友人」や「交際相手」から知識を得る

→元を辿っていくとアダルトビデオやアダルトサイト

・自分の身体を知る：「自分のからだが好き」と実感するさまざまな機会を作る

自分のからだを肯定的に受け止める意識

・幼いときから自分のからだの大切さ、プライベートゾーンは特に大切な部分であると教えることは、性被害を受けないための予防になる。生活のなかで繰り返し伝える

※プライベートゾーン：男の子も女の子も下着や水着をつけることで隠せる部分

・親も教わってきていない。まずは親が学んでいくこと。男女両方について知る事が大切。

○子どもに教えるときの注意点

①淡々と事実を伝える②価値観をくっつけない③子どもが興味を示したときに応えていくのがベスト④若い異性きょうだいの場合本人達が嫌がらなければ同時に伝えたり応えたりしてもいい⑤高学年以上は同性の親が伝える(もしくはそれに変わる年長者)

※否定したりからかったりせず、きちんと対応する事が大事。